



# さくらんぼ

～やさしく・かしく・たくましく～

NO.10 平成31年3月19日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

## 大きく大きくなりました！（花組）

10月末、明日香先生からバトンタッチされて2日目の、園外保育へ出かける日。花組さんは何人もの子どもが泣きながら、それぞれ保育者に抱っこされて園を出発しました。担任が変わったことをようやく理解したところのお出かけとあって、子どもたちの不安はピークだったのかもかもしれません。一緒に歩く星組さんもお心配そうに顔を覗き込んだり、気持ちを伝えようと話しかけてくれたりと色々とお心づかいをしてくれました。

世界の森公園に着くと、シイの実や落ち葉を拾って遊び始め、ようやくどの子どもにも笑顔が見られたときにはホッとしたものです。

あれから約4ヶ月。お別れ遠足に出かける為に園庭に並ぶ様子はそれはそれは立派なものでした。もちろん涙はなく、皆うきうきした様子で、行き道には花組だけでお友達と手を繋いで歩いていくことに、自信さえ感じているようでした。

博物館の辺りに来た頃、先に出発していた星組さん風組さんとちょうど出会い、噴水を見ていた時のことです。Aくんが「先生、前に来たとき、ぼく泣いてたよね。でもここで先生がおもしろいこと言って笑ったよね。あれおかしかったね。もう、今日は泣いてないけどね。」と言いました。そう言われた途端に、忘れていたその光景がよみがえり、同時に今、目の前にいる子どもたちの成長ぶりを実感して、こちらの方が目頭が熱くなる思いでした。

世界の森公園に入る頃、誰からともなく「さんぼ」の歌を歌い始め、花組大合唱で到着。荷物を置くと、それぞれにすでに知っているお気に入りの場所へと駆け出して遊び始めました。木の実と枝を集めてバーベキュー、ヒーローになりきってたたかいごっこ、木登り、かくれんぼ、ワニごっこ、遊具がなくとも次々に楽しい遊びを見つけることができるのは、附属幼稚園の子どもたちの自慢です。そして花組さんも皆それができるようになったのです！元気いっぱい走り回ってからのお弁当は、格別においしかったことでしょう。あっという間に食べ終わりました。

帰り道は、星組さんのお兄さんお姉さんに手を繋いでもらおうと、ちょっぴり甘えたように頼って歩いたり、お話を聞いてもらったりする姿が見られました。道路では、車道側を歩いて花組さんを守るように歩いたのもしい星組さんも、ついこの間、守ってもらった側だったのに…。早いものです。

きっとみんなも、やさしくてたのもしい風組さんになることでしょう。いっぱい遊んで大きくなった花組のみんな。楽しい一年間でしたね。花組修了おめでとう★（植村）



## ♪お別れ会♪楽しみでドキドキする～（風組）

2月末、ウサギの飼育の引き継ぎがあった日の帰りに、「星組さんやさしかったね。」「星組さんの〇〇くんと仲良くなったよ。」「今日教えてくれた星組の〇〇ちゃんってね、私のパブリカの衣装つくってくれたんよ。」と子どもたち。お帰りの紹介の時間には、星組さんに教えてもらったことを紹介したいというグループもありました。飼育の引き継ぎをきっかけに、好きな遊びのときの劇やダンスを星組さんに見てもらったり、一緒に氷鬼をしたりなど、星組の子どもたちとも遊ぶことも多くなっていきました。

そんなある日、星組さんがもう少しで卒業することを伝えると、「なにかプレゼントをあげたい!」とAちゃん。すると、「わたしも!」「ぼくも!」とみんなが星組さんになにかしてあげたいという強い思いを伝えてくれました。「そうだね～。鉛筆立てをあげるっていうのはどう?」と聞くと、「いいね～!」「つくりたい!」とみんなの目は一瞬で輝きました。「でも、みんなで作ったなら星組さんにばれるよ。内緒でつくらんと。」とKくん。「それなら、星組さんがいないときにこっそりつくるといいの?」とちよど里山がある日は星組さんが幼稚園にいないよ。」と言うと、「おお!それいい!そうしよう!」とSくん。その日から附属幼稚園伝統のプレゼント大作戦が始まりました。

次の日から風組は大変です。ピンに粘土をつける、色を付ける、ニス塗る、メッセージカードをかく、ラッピングするという工程を少しずつ進めていきました。そのときにも、「せんせい!星組さんが見に来たらいけないから、教室に隠しておこう!」「ぼく、ここは入れませんって書いてあげる」とみんな張り切って鉛筆立てをつくりました。つくっていくうちに、星組にどうやってあげようかという話にもなり、お別れ会をひらいて歌を歌ったり、ありがとうを伝えたりしようという計画が立ちました。風組の歌は、ありがとうをたくさん届けたいという思いが大きかったため、「ありがとうの花」という曲を歌うことになりました。お別れ会当日まで、お帰りのときに毎日思いをこめながら歌いました。お家でお子さんと一緒に歌っているというご家庭もあり、お家の方々と一緒にお別れ会を楽しみにしている姿に私も嬉しくなりました。

お別れ会当日は、星組さんに喜んでもらって大成功でした。星組さんの照れながら…でも嬉しそうなお顔に風組の子どもたちもとても嬉しそうでした。風組の4月の頃には、自分の武器やステッキをつくって各々が楽しい遊びを見つけて遊んでいた子どもたち。しかし、だんだんと時が経つにつれ、友達と活動することが増えていき、工作の作り方を教えてあげたり、友達のけがを心配したり…自分事だった子どもたちが相手を意識するようになっていきました。そして、3月にはお世話になった星組さんのためにお別れ会を計画したり、プレゼントをつくったりするようになりました。

自分達もこんなにお世話ができようになったんだ!ということや、今までやってもらうことが多かった星組さんに喜んでもらえたということが、今後の子どもたちの自信につながっていき、素敵な星組さんになっていくと嬉しいなと感じています。お別れ会で張り切って進める風組さん、とってもかっよかったよ☆（福田）



## 星組はもうすぐ1年生!

今年は例年になく暖冬で、花組テラス横のサクランボはいつもより早く花を咲かせました。星組の子どもたちは卒業や就学に向けての生活や活動に取り組んだり、これまでした遊びを思い返すように様々な遊びを楽しんだりしました。

星組がウサギのお世話を風組に引き継ぐ機会をつくり、生活グループごとに進めます。星組はウサギのお世話である三つの仕事、①ほうきで糞を取る、②たわしで器を洗う、③餌をあげる（包丁も使って）を誰がどの見本をするか、誰が説明するかなどをグループごとに話し合いましたが、したい役割が重なっても「ジャンケンで決めよう。」「(役割を)代わってもいいよ。」「包丁はみんなでしょう。」と自分達で相談したり、譲ったりする姿が見られました。

自分達のグループが教える日には、登園してくる仲間を待ってグループのピンスを手渡したり、風組が登園しているかを確認しに行ったりとはりきる星組の姿が見られました。

ウサギ小屋では、星組が風組に見本を見せたり、風組がする姿を見守ったりするなかで「こうするんよ。」「手を猫の手だよ。」「じょうずだね。」と星組のやさしい声も聞かれました。「自分達が風組に教えるのだ。」という気持ちに姿にも言葉にも表れていることに就学前の育ちを感じうれしく思いました。

引き継ぎの最後に保育者が「星組さん風組さんにお話がありますか?」と尋ねると「私たちが小学生になるから、ウサギのお世話をお願いします。」「星組になったらがんばってください。」という言葉が聞かれました。そのような言葉を声に出して伝えることが、風組に「星組になるんだ!」という気持ちをもたせると共に、星組自身を「もうすぐ1年生だ。」という気持ちに向けてくれているようです。（高田）

園庭のチューリップが日に日に背を伸ばし、つぼみをつけ始めました。まるで、新たな春に向けて期待をふくらませている子どもたちのようです。3月はお別れ遠足にお別れ会と続き、もうすぐ卒業、もうすぐ進級という気持ちが高まって、残りの日々を惜むようにいつにも増してよく遊ぶ姿が見られました。一年間の遊びの中で得たものを糧にして、きっと4月には子どもたちも、色とりどりの花を咲かせるでしょう。

このさくらんぼを通じて、たくさん遊んで育っていく様子を皆様にお伝えできていたなら幸いです。

一年間、ありがとうございました。（編集・植村）

